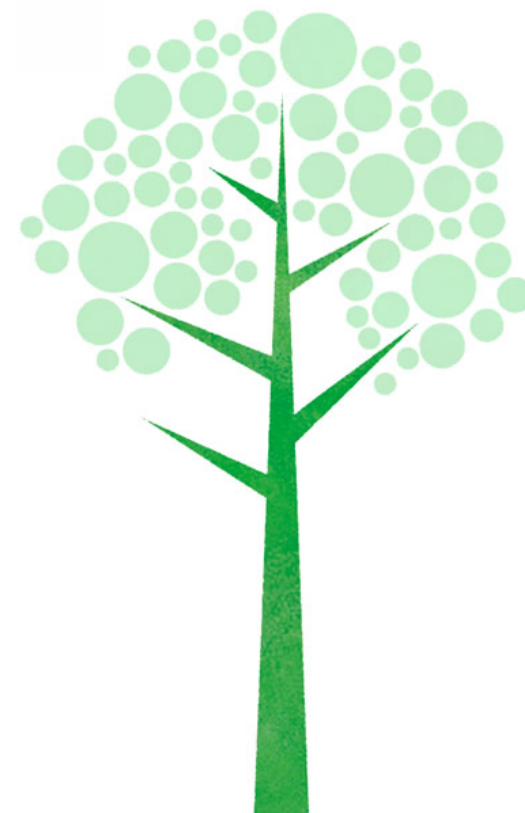




東日本大震災の教訓を未来に生かす
防災先進都市づくり
～国連防災世界会議の仙台・東北開催に向けて～

平成25年12月6日
仙台市



東日本大震災の教訓と災害に強い都市づくりに向けた3つの視点

教訓と課題

○完全な防災の限界(「減災」の視点の重要性)

想定を超える巨大な津波や地震への物理的対応の限界

○都市の脆弱性

電気、水道、ガス、通信などのライフラインの停止

公共交通機関の被害による移動手段の断絶、帰宅困難者の発生

エネルギー不足による問題(あらゆる都市機能の低下や復旧作業への支障)

○公助の限界と自助・自立と協働・支えあいの重要性

要援護者救助、避難所運営、物資等の譲り合い、各都市との相互応援

災害に強い都市を目指す3つの視点

1. 災害に強い都市づくり(ハードやシステムづくり)

2. 支え合う「自立」・「協働」の地域づくり

(1) 地域における支え合い活動の推進

(女性視点からの防災活動、子供達の防災教育、要援護者対策など)

(2) 復興や防災を地域で支える担い手づくり

(平時からの地域、学校、公益団体、NPO、企業等との連携)

3. 防災意識の高い人づくり

(1) 市民向け防災セミナーの開催

(2) 「地域防災リーダー」の養成及び活動のバックアップ

(3) 新たな防災教育の充実



女性の視点からみた震災の課題と取り組み

東日本大震災前からの問題提起

○「女性たちの防災宣言」

- ・従来の防災訓練の問題点 ⇒ 「生活者」の視点が希薄
- ・平成22年「6.12市民防災の日」総合防災訓練
⇒ 女性の視点を反映させた避難所運営訓練を本格実施



○ 災害時における女性のニーズ調査

- ・平成20年5月～6月にNPO法人イコールネット仙台が実施
⇒ 女性の視点からみる防災・災害復興対策に関する提言（避難所運営など）

東日本大震災における支援・女性たちの活躍

○ 男女共同参画推進センター・せんだい男女共同参画財団が女性支援の拠点に

- ・女性の悩み災害時緊急ダイヤル ⇒ H23.3/29～7/23の間に324件の相談
- ・ほっとするスペースの提供 ⇒ 活動スペースの提供、悩みを吐き出し、“ほっとする”時間を過ごす
- ・「せんたくネット」の展開 ⇒ 日頃のネットワークが災害時に力を発揮
せんだいの女性たちがたくさんの女性の本音を汲み取って、一緒に解決する ネットワーク(洗濯の代行、ズボンの丈詰めなど)



○ 女性による女性への支援

- ・みやぎジョネット、イコールネット仙台、ハーティ仙台など



防災・復興に女性の視点を

○ 3.11を語る女性のつどい（H23.7.6開催）

- ・震災復興計画の参考とするため、震災の体験と記憶がさめないうちに、女性たちの意見交換を実施



○ 地域防災計画の見直し

- ・防災会議の女性委員の増（60名中2人⇒70名中11名（15.7%））
- ・基本方針に「男女共同参画の視点を取り入れた災害対策」を明記
- ・避難所運営の基本方針に女性の参画への配慮を記載
- ・女性支援センターの設置



○ 女性の視点で防災を考える市民・NPOなどの動き

- ・男女共同参画の視点から防災・災害復興対策に関する6項目の提言
- ・女性のための防災リーダー養成講座 開催
- ・子育てファミリーのための地震防災ハンドブックの作成
- ・冊子「私にもできる復興支援」 など



「教訓を未来に生かす」防災・仙台モデルの構築へ

- ・避難所の運営や機能の見直し
- ・「防災人」づくり
- ・地域を越えた絆づくり
- ・防災に関する知の集積と発信

女性の経験と学びを伝えるために

○ 日本女性会議2012仙台「きめる、うごく、東北から」

- ・平成24年10月26日～28日。全国47都道府県から約2,200名が参加
- ・「仙台宣言」...女性自身が「きめる」重要性、「うごく」必要性
- ・「復興と女性 基金」の設立...被災地の現状の継続発信

○ 東日本大震災復興のための女性リーダーシップ基金

- ・ノルウェー王国からの復興支援として平成24年11月に設立
- ・復興活動を主導することのできる女性人材の育成、全国的な女性のネットワーク構築などの事業を実施



○ 男女共同参画センター防災・復興キャンペーン(H25.9～H26.3)

- ・全国女性会館協議会の会員館87の男女共同参画センターが、防災・復興をテーマにさまざまな事業を実施
- ・キャンペーン報告全国会議(平成26年4月18日(金)、エル・パーク仙台)

本市のキャンペーン関連事業

○男女共同参画推進フォーラム2013 防災・復興～男女共同参画でつながる明日へ
平成25年11月18日(月)～平成25年11月24日(日)

○仙台市男女共同参画推進センター職員派遣 ～スタッフが語る3.11とこれから～
全国の男女共同参画センター等に職員を派遣

○みんなのための避難所作りワークショップ

「女性の視点による地域防災ワークショップ」を受講した市民と職員が協働して作成したプログラムをもとに、地域でワークショップを実施

様々な主体との協働の推進

○ 町内会などの地域組織

- ・ **自主防災組織の設置と地域コミュニティにおける防災訓練等の実施**
30年前から地域における自主防災組織や自主防災活動を促進
自主防災組織は、市内に1360組織(結成率97%)。防災訓練は年延べ1700回以上
- ・ **東日本大震災直後からの避難所の運営**
東日本大震災で仙台市では、一時10万人もの方が避難
避難所運営には、町内会、自主防災組織などの地域団体が大きな力を発揮
⇒ 平時からの行政と町内会などの地域組織との連携がうまく機能した例

○ 公益団体やNPOとの協働

- ・ (社福)仙台市社会福祉協議会が「**仙台市災害ボランティアセンター**」を立ちあげ、全国からのボランティアと現場のニーズとをマッチング
- ・ (財)仙台国際交流協会が、ラジオやインターネットを活用して**多言語情報を発信**
- ・ 仮設住宅で暮らす人を支援する「**安心見守り協働事業**」。NPOで構成する市内の一般社団法人「**パーソナルサポートセンター**」に業務を委託
- ・ 「**みやぎ連携復興支援センター**」がNPOと被災地域とをつなぎ、支援団体の活動をサポート

○ 民間事業者との協働(災害時の協定、ノウハウの活用)

- ・ 帰宅困難者対策
- ・ 食料品、衣料品、日用雑貨などの生活物資の安定的確保
- ・ 石油等のエネルギー確保推進
- ・ 民間事業者のノウハウを生かした物資配送システムの構築



仙台市災害多言語支援センター 5

防災の「ロール・モデル」都市 仙台

国連国際防災戦略事務局 (UNISDR) による「世界防災キャンペーン『災害に強い都市の構築』」に参加し、世界で35都市目（日本では兵庫県に続き2例目）の防災の「ロール・モデル（模範）都市」の認定を取得。

模範として認定されたテーマ

コミュニティレベルの減災推進とそのために行動する人づくりの模範都市

震災前からの防災の取り組みと、震災の教訓を踏まえた新次元の防災・環境都市としての街づくりに関して、市民協働の取り組みと「市民力」が特に評価

模範都市としての貢献

- ・東日本大震災の教訓とともに、これまで取り組んできた地域における防災活動を国内外に発信
- ・震災からの復興に向けた取り組みを継続して発信



国連防災世界会議が仙台にて開催されることを契機として、仙台・東北における震災の経験・教訓や防災・復興への取組みを国内外から訪れる人々と共有し、防災意識の向上や今後の防災文化の発展に資する



避難所運営訓練の様子



仮設住宅を回っての見守り支援

第3回国連防災世界会議における一般公開事業(仙台市の想定)

シンポジウム、セミナー

【テーマ案】

- ・ 東日本大震災の経験と教訓を語り継ぐ
- ・ 災害に強い都市づくり
- ・ 市民協働による防災地域づくり
- ・ 防災教育と人づくり

【特別テーマ案】

・「防災・復興と女性」連続シンポジウム

(テーマ館:エル・パーク仙台 [仙台市男女共同参画センター]を想定)

- ・ 市民協働による防災・復興支援
- ・ 企業における防災の取組み、経済復興

- ・ 国内の様々なNPO、市民団体、専門家、被災地の女性支援を行った企業等によるプログラム
- ・ 被災地からの発信、男女共同参画の視点で実践する防災対策、震災と男女共同参画推進センターの役割、災害における企業の女性支援など

* 全国女性会館協議会 全国キャンペーン、日本女性会議等でのイベントも実施

展示会

- ・ 防災・復興展:復興、防災・減災まちづくり、地元自治体の復興・防災に関する展示
- ・ 防災産業展:防災産業技術展、トレードショー

(内容は現在検討中のため、今後修正の可能性あり)

